

## 令和元年度 第1回今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会 会議録

- 1 日 時 令和元年5月21日(火) 10時00分～12時00分
- 2 会 場 特別会議室3・4号
- 3 内 容
  - (議事1) 地方創生推進交付金事業(平成30年度実施事業)の効果検証について
  - (議事2) 地方創生拠点整備交付金事業(平成30年度実施事業)の効果検証について
  - (報告1) 地方創生港整備推進交付金事業の中間評価結果について
- 4 出席者
  - <座長>  
越智企画財政部長
  - <専門委員>  
村上 伸幸            山本 一馬            丹下 隆志            吉田 和史  
吉武美由紀            門田 正孝            赤尾 宣宏            門田 尚樹  
吉武 優子            望田 友加
  - <代理>  
森 康弘(宇高 秀志専門委員代理)
  - <構成員>  
森山 徹            和田 浩一            平田 親吾            鳥生 幸司  
瀬尾 孝志            品川 二郎            森 会美            藤井 康隆  
越智 秀樹            鎌田 浩志            岡本由利香
  - <PT及び事業担当者>  
高齢介護課            木村 光男            障がい福祉課            森 理  
子育て支援課            松岡 敏一            保育幼稚園課            長野 幸治  
道路課            井手 則緒            下水道業務課            菊川 茂之  
消防本部総務課            越智 仁            商工振興課            長橋 伸泰  
営業戦略課            吉松敬太郎            営業戦略課            森 健治  
観光課            渡部 誠也            観光課            田中 敏行  
農林振興課            阿部 隆太
  - <事務局>  
(企画課) 秋山課長、越智補佐、大政係長、川崎主査、高橋技師

令和元年度 第1回今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会 会議録

事務局	<p>本日は、ご多忙の中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から令和元年度第1回「今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会」を開催いたします。</p> <p>私、事務局を務めさせていただきます企画課長の秋山でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、まず、開会に当たりまして、座長であります越智企画財政部からご挨拶申し上げます。</p>
座長	<p>皆様、こんにちは。座長を務めさせていただきます、企画財政部長の越智と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。本日はお忙しい中お集まりいただき、まことにありがとうございます。</p> <p>さて、人口減少の抑制に向け策定いたしました「今治市まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきましては、記載されている各種事業を順次、国からの交付金を活用しながら実施しているところでございます。これらの事業実施に際しましては、皆様のご理解・ご協力を賜っておりますこと、厚くお礼申し上げます。</p> <p>また、交付金を活用した事業の実施効果について、国の制度上、検証を行う必要があり、昨年度もこの懇談会において、「地方創生推進交付金」及び「地方創生拠点整備交付金」を活用した事業の効果検証をしていただきました。本日の懇談会では、昨年度に引き続き、「地方創生推進交付金」及び「地方創生拠点整備交付金」を活用し実施した平成30年度事業における数値目標の達成度や効果検証について、委員の皆さまからのご意見を頂戴したく存じます。</p> <p>また、「地方創生港整備推進交付金」を活用した事業もございます。こちらは港施設を整備する事業でございますが、この事業の評価は「しまなみ、ゆめしま、とびしま 3海道を支える港づくり計画」検討会において実施されておりますので、後ほどそのご報告もさせていただきます。</p> <p>さて「総合戦略」に基づく各種事業については、見直しを図りつつ、本格的な事業展開を実施しております。委員の皆さまにおかれましては、引き続き今治市の人口減少対策・地方創生への取組について、ご理解・ご協力をいただければと存じます。</p> <p>なお、総合戦略や共生ビジョンに基づく取組を、より市民の皆さまに開かれたかたちで進めていくため、今年度も本ビジョン懇談会は公開会議とさせていただきます。また会議録におきましても、市の公式ホームページにて公開させていただきますので、ご理解賜りますよう、お願い申し上げます。公開会議としているため、会の途中で傍聴される方が入室する場合もございますので、ご了承ください。</p> <p>それでは、本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、まず始めに新任の専門委員さんを1名ご紹介いたします。</p> <p>愛媛県漁業協同組合連合会 東予支部今治出張所 門田 聡所長に代わりまして、吉田 和史所長に今年4月より専門委員を委嘱させていただきます。</p> <p>続きまして、代理出席の方をご紹介いたします。越智今治農業協同組合の宇高秀志委員の代理としまして、営農振興部長の森 康弘様にご出席いただいております。</p>

	<p>す。</p> <p>なお、今治市医師会の瀬野委員におかれましては、代理出席についても叶わず、やむを得ずご欠席となっております。</p> <p>次に、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>今回使用する資料は、会次第、資料1-1地域再生計画（今治型産業クラスター構築計画）、資料1-2地域再生計画（しまなみDMO形成推進事業）、資料1-3地域再生計画（「いまばりサイクルシティ構想」を核とする広域観光推進計画）、資料2地方創生推進交付金事業効果検証調書（今治型産業クラスター構築計画）、資料3地方創生推進交付金事業効果検証調書、（しまなみDMO形成推進事業）、資料4地方創生推進交付金事業効果検証調書（「いまばりサイクルシティ構想」を核とする広域観光推進計画）、資料5地方創生拠点整備交付金事業効果検証調書（「いまばりサイクルシティ構想」を核とする広域観光推進計画）、資料6地域再生計画（地方創生港整備推進交付金）中間評価調書となっております。</p> <p>あわせて、「配席図」「資料2の1枚目」「観光パンフレット（シマップ）」「サイクリングマップ」「外国人向けガイドマップ」の5点を机の上に配布させていただきます。資料2については、1枚目の目標数値に一部記入漏れがありましたので、事前にお配りしているものと、差替えをお願いいたします。</p> <p>皆様、おそろいでしょうか。</p> <p>では、ここからの進行を座長の企画財政部長にお願いしたいと思います。</p>
座長	<p>それでは、進めさせていただきます。お手元の会次第でございますように、本日は議事2件と報告1件がございます。まず、この2件の議事の進め方について、事務局からご説明いたします。</p>
事務局	<p>それではご説明します。まず前段としまして、地方創生推進交付金及び地方創生拠点整備交付金の制度概要からご説明します。</p> <p>まず、地方創生推進交付金は、「総合戦略」に基づく、自主的・主体的で、官民協働、地域間連携、政策間連携等の要素を含む先導的な事業に対して、国が必要経費の2分の1を支給するものでございます。</p> <p>一方、地方創生拠点整備交付金は、地方創生推進交付金がソフト事業の実施にかかる補助金であるのに対し、施設整備等ハード事業の実施にかかる補助金として、創設された交付金でございます。</p> <p>これらの交付金を受けるためには、事業ごとに「地域再生計画」を策定する必要があり、事業の具体的内容や、KPI、評価体制等について記載が求められます。</p> <p>続きまして、各地域再生計画の概要についてご説明します。</p> <p>まず資料1-1「今治型産業クラスター構築計画」でございます。本市を支える海事産業や繊維産業等の「ものづくり産業」は、技能伝承や人材不足といった課題を抱えており、また本市の顔であった中心市街地も、交通体系の変化等により活力を失いつつある状態でございますが、一方で、サイクリングやサッカー等、新たな地域資源を活かした、新産業創出の気運が高まっております。</p> <p>そこで、これら地域資源の結び付きを強め、異業種連携ネットワークの形成を促進するとともに、産業人材の確保・育成と創業人材の確保支援に取り組み、産業力の強化に繋がる「今治型産業クラスター」の構築を目指して、各種施策を実施しよ</p>

うとするものです。主な取組としましては、バリチャレンジユニバーシティの開催、各種産業をはじめとするプロモーション展開、中心市街地活性化事業の展開などがございます。

地方創生推進交付金を活用しており、事業実施期間は平成 30 年度までの 3 年間となっております。

次に、資料 1-2 「しまなみDMO形成推進事業」でございます。瀬戸内しまなみ海道エリアには、サイクリングルートをはじめ自然、歴史、文化的資源等のポテンシャルの高い観光資源がありながら、各事業者が独自の観光振興活動を実施しているため、最大限の効果を発揮できていない現状でございます。そこで、しまなみ海道全体を広域でマネジメントする、永続的かつ自立的な事業者であるDMO（一般社団法人しまなみジャパン）を構築し、民間と協働しながら自立運営を可能とする収益事業を確立するとともに、地域を巻き込んだしまなみ海道エリアの観光産業振興を図ることを目的として、「しまなみDMO」形成運営事業を展開しようとするものでございます。

地方創生推進交付金を活用しており、事業実施期間は令和 2 年度までの 5 年間となっております。

残る、資料 1-3 「いまばりサイクルシティ構想」を核とする広域観光推進計画」でございます。瀬戸内しまなみ海道開通や広域合併を経た本市は、多島美・食材・温泉・日本遺産等の多彩な観光資源を有しておりますが、近年、サイクリスト等が増加し、交流人口の拡大に対応できる受入れ環境の整備不足や地域資源間の連携不足により、その魅力を最大限発揮できていない現状でございます。そのため、観光施策の核となる「今治サイクルシティ構想」を推進し、観光客の受入れ環境を整備・充実させるとともに、サイクリングと多彩な観光資源を連携させることで、しまなみ海道沿線全域で誘客を促進し、交流人口の拡大、新産業の創出及び雇用の創出を図ることを目的としております。主な取組としましては、サンライズ糸山の拡張整備、サイクリングイベントの開催、台湾等への観光プロモーション事業などがございます。

こちらの地域再生計画では「地方創生推進交付金（ソフト事業）」と「地方創生拠点整備交付金（ハード事業）」の 2 つを活用しております。地方創生推進交付金の事業実施期間は平成 30 年度までの 3 年間で、地方創生拠点整備交付金の事業実施期間は令和 2 年度までの 5 年間となっております。

以上が、地域再生計画の概要でございます。

それでは、これから皆様に協議していただくにあたり、議論の進め方についてご説明いたします。

まず、今回ご協議いただく事業ごとに作成しております、資料 2～4 の地方創生推進交付金事業効果検証調書、および、資料 5 の地方創生拠点整備交付金事業効果検証調書に基づいて、KPI の状況と、実施した具体的事業の概要等について各担当課からご説明申し上げ、そのあと、事業ごとに区切って委員さんのご意見をいただくという流れで進めさせていただければと思います。

次に、本日いただいたご意見は、各資料の左下部分、「外部有識者からの意見」欄に記載のうえ、その右側の「市の方針、改善点など」欄もいただいた意見をふま

	<p>えた内容に調整のうえ、後日委員の皆さまにご確認をいただけたらと思っております。その後議会での議員の皆さまへの説明を経て、議会からのご意見も取り入れたかたちで、最終的な評価とさせていただきます、委員の皆さまにも共有させていただきます。</p> <p>以上が協議の進め方でございます。積極的なご発言をよろしくお願いいたします。</p>
座長	<p>本日の議事の進行について、なにかご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>(質問等なし。)</p> <p>ないようでしたら、先ほどの事務局の説明のような流れで進行させていただきます。</p> <p>それではさっそくですが、議事(1) 地方創生推進交付金時事業(平成30年度実施事業)の効果検証について、協議をさせていただきます。</p> <p>はじめに、お手元の 資料2 地方創生推進交付金事業効果検証調書「今治型産業クラスター構築計画」について、担当課よりご説明します。</p>
平田構成員	<p>私は商工振興課課長補佐の平田と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>まず最初に、昨年度から重要業績評価指標の目標数値に変更がございました。これは、後ほどご説明させていただきます「東京オリンピックに向けた今治タオル等プロモーション事業」において、「今治」の新たなブランドイメージの推進体制づくりの事業を新しく追加したために、事業費の増加割合に合わせて目標数値も増加しております。</p> <p>また、目標1「輸送用機械器具、繊維製造品出荷額の2016年実績値」につきましては、昨年記載の実績値が2015年の実績値であったため、2016年実績値に修正させていただいております。</p> <p>それでは、平成30年の目標数値に対する達成度についての分析について説明いたします。</p> <p>まず目標1の「輸送用機械器具、繊維製造品出荷額の2017年実績値」および目標2の「繊維工業従業者数における2018年実績値」が未記載である理由は、2018年の工業統計調査集計の確定値が8月以降公表となるため、現時点での数値は記載できておりません。</p> <p>目標2のもう一つの指標である「輸送用機械器具製造業従業者数」は6,078人と前年比586人減少となっています。本社従業員は増加したものの、下請け事業者数が減少したことが要因と考えています。繊維工業従業者数は、人材確保に向けた業界内での取組もあり、平成29年6月時点の数値ながら対前年比で大幅に増加しています。</p> <p>また、目標3の「中心市街地の歩行者と自転車の通行量」につきましては、最終目標値には届きませんでしたが、前年比として、101.7%となりました。みなと交流センター「はーぱりー」及びまちなか活性化サロン「ぷらっと」などの交流拠点を中心としたイベントや、まちカフェなどの商業機能の充実により通行量の増加が図られました。</p> <p>それでは、実施した事業についてそれぞれの担当部局からご説明いたします。</p>
平田構成員	<p>繊維染色加工業の基盤強化につきまして、引続き説明をさせていただきます。こ</p>

	<p>の事業についてでございますが、繊維染色加工業が今治タオルのブランド価値とも言うべき厳しい品質基準を支えているのにもかかわらず、最盛期には約 30 社あった企業数は現在 8 社まで減少しております。このままスポットが当たらず、人材不足や設備更新が出来なければ、同業界の存続はもちろん、タオル業界も危機に瀕してしまう状況です。そこで、本事業では、同業界のイメージアップを図り、優秀な人材の獲得や雇用の拡大を図るため、事業主体である愛媛県繊維染色工業組合に対し、補助金の交付をしているものでございます。それでは、平成 30 年度事業の主な内容についてでございますが、昨年に引き続き、繊維染色産業基盤検討委員会を設置し、「今治の色と香り」発信事業や「IMABARI Color Show2019」の開催に取り組みました。</p> <p>「今治の色と香り」発信事業では、別添 2-1 のブックレット 29 ページ中段にありますように、色等の決定の為、高校生を含む市民の方に参加いただきワークショップを開催し、別添のブックレット 30 ページの下段にあります「軟水の源、樹の緑と空の青」等を決定しました。</p> <p>また、「IMABARI Color Show2019」では、染色技術の特別展示、デザイナーであるエマニュエル・ムホー氏監修の「1000 色の波」のインスタレーションの披露、ブックレットの配布、「IMABARI Color Show2019」に関わった専門家によるトークセッション、染色工場の見学や職人とのランチミーティング、染色体験ができるワークショップを盛り込んだ、オープンファクトリーを開催しました。</p> <p>事業効果としまして、「今治の色と香り」の発信事業については、参加した高校生を含む市民に、色と香りの関係を学んでもらい、「IMABARI Color Show2019」開催に向けた機運醸成を図るとともに、繊維染色加工業への理解促進を図ることができました。</p> <p>また、「IMABARI Color Show2019」では、H31.3.19～22 までの週中の 4 日間で、1,153 人に来場いただき、インスタグラムにおける「インスタ映え」を通じた、高い PR 効果や、来場者による情報発信を含め、普段触れることのない繊維染色加工業に対するイメージアップを図ることができました。また、同時に実施しましたオープンファクトリーでは繊維染色工場の一般見学会や染色体験においては、今治地域の児童をはじめとした市民の方に対して、繊維染色加工業に対する理解促進を図るとともに、子どもたちに対するキャリア教育へ繋がる、効果的な事業を実施することができました。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>営業戦略課 (吉松係長)</p>	<p>つづきまして、「バリチャレンジユニバーシティの開催」について説明をさせていただきます。バリチャレンジユニバーシティは、今治市内高校生や全国の大学生、若手社会人が今治に集い、テーマに向かってチャレンジする学びの場です。今治市長を名誉学長、今治、夢スポーツの岡田オーナーを学長、今治青年会議所理事長を実行委員長とする実行委員会が主催となって開催しました。</p> <p>別紙 2-2 「報告書」を参考にいただきながら、ご説明いたします。1 ページ目をご覧ください。3 年目となる平成 30 年度のバリチャレンジユニバーシティは、昨年 8 月 17 日から 19 日の 2 泊 3 日の日程で、主にみなと交流センターは一ばりーにて実施されました。50 名の募集定員に対し、全国から 228 名の応募があった中か</p>

	<p>ら選ばれた受講生たちは、8 班に分かれて、「スポーツの力でどうやって活力に満ち人が集まってくる街にするか」をテーマにワークショップを行い、若者による感性豊かな提案がなされました。</p> <p>ワークショップに際しては、3 ページおよび 4 ページに掲載しております FC 今治の著名なアドバイザーボードメンバーに講師として参加していただき、深い経験と知識によって、学生たちの将来につながるようなアドバイスをいただきました。</p> <p>つづいて、5 ページをご覧ください。市内企業の若手社会人に議論の進行役であるファシリテーターとして参加していただいたことで、市内企業のネットワーク作りやリーダーシップの醸成にも資する事業となりました。</p> <p>また、過去 2 回の参加者からの意見として、フィールドワークを望む声が多かったことから、6 ページに掲載しておりますように、しまなみ海道のサイクリング及び、ありがとう夢スタジアムの見学を初の試みとして実施することで、全国から来た学生たちが積極的に今治を知ろうとするきっかけを作ることができました。</p> <p>ワークショップおよびフィールドワークの結果、7 ページから 14 ページに掲載されている提案がなされました。日程の最終日には提案発表会を一般公開し、市民の方を中心に 140 名の方にご覧いただくなど、新聞やテレビのニュースにも取り上げられ、注目される取り組みとなりました。</p> <p>「バリチャレンジユニバーシティの開催」の説明は以上でございます。</p>
<p>営業戦略課 (吉松係長)</p>	<p>つづきまして、いまばりシティクライヤー設置事業について説明をさせていただきます。「いまばりシティクライヤー」とは市の宣伝マンとなって今治の魅力や地域資源を全国に発信してくださる方のことです。識字率の低かった中世のイギリスに実際に存在した、公の情報など大切な情報を大声で伝える「タウンクライヤー」という職業に因んで、「いまばりシティクライヤー」と名づけました。シティクライヤーの皆様に宣伝マンになってもらい、別紙 2 - 3 クライヤーカードをそれぞれ独自の方法で全国に拡散してもらうことで、今治市の知名度及びイメージアップを図ってまいりました。</p> <p>事業を開始して 3 年目となる平成 30 年度には、平成 29 年度に引き続き、一般公募を行い 3 名の応募があり、新たにシティクライヤーとして登録をし、1 名につき 100 枚配布させて頂いております。平成 28 年度に各界著名人に委嘱させていただいたクライヤー 20 名、平成 29 年度に一般公募等でシティクライヤーとなっていた 19 名とあわせて、合計 42 名がクライヤーカードを通して全国に向けて情報発信をして頂きました。また 3 月に卒業した市内高校生にも 1 人当たり 10 枚配布させて頂き、若者の愛郷心を育むとともに、就学・就職等で活用してもらうなど若者のネットワークを活かした情報発信が行われました。</p> <p>一般公募で登録いただいている 21 名の一般クライヤーから昨年 10 月と今年 2 月に活動報告書を提出してもらい、この事業の内容やクライヤーカードの記載内容に限らず、今治のもつプラスのイメージやマイナスのイメージなど、さまざまな情報収集ができましたので、今後のプロモーション活動に活かしていきたいと考えております。</p> <p>またさらなるプロモーション活動の拡充を図るために、別紙 2 - 4 シティプロモ</p>

	<p>ーションフリーペーパー「今治スタイル」ボリューム4を作成しました。今回の今治スタイルは、後世に残したいもの編として今治の町並みやお祭り、郷土料理など伝統や文化に焦点をあて、昔ながらの今治を紹介する構成となっております。</p> <p>この今治スタイルは「いまばりシティクライヤー」の皆様に限らずさまざまな方に配布し、今治の魅力を全国に情報発信していただいております。</p> <p>いまばりシティクライヤー設置事業の説明は以上でございます。</p>
<p>営業戦略課 (吉松係長)</p>	<p>つづきまして、「東京オリンピックに向けた今治タオル等プロモーション事業」について説明をさせていただきます。</p> <p>東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されており、今治タオルをはじめ、「今治」に関するものをPRする絶好の機会であると考えられます。今治市においては「オール今治」体制でシティプロモーション活動を実施することで、より効果的なPRになることを目指しており、今治タオルなど産業に関するものやサイクリングや食といった地域資源との様々なコラボレーションが実施されるなど、相互に関連付けてPRが行われることで、今治地域としての新しいブランドイメージを構築してまいります。</p> <p>新しいブランドイメージを構築していくにあたり、今治ブランド戦略会議を立ち上げ、各地域資源に関する団体等にご参画いただき、年3回にわたり開催しました。会議では、総合監修として、今治タオルのブランディングに携わった佐藤可士和氏を招聘し、今治の魅力を発信することで今治にハマってもらうためのキャンペーンとして「アイアイ今治キャンペーン」を実施することとなりました。</p> <p>キャンペーンでは、「I'm into imabari！（私は今治にハマっています。）」というキャッチフレーズやロゴを作成し、市民活動や企業活動などにおいて、広く使用していただくことで、市内を盛り上げるとともに、今治の魅力を市外に発信していきます。公式HPやFacebook、Instagramも開設しており、公式HPでは情報発信をするとともに、一般の方もロゴマークのデータをダウンロードして使用できるようになっています。</p> <p>3月9日には、アイアイ今治キャンペーンに関するプレス発表会及びプレス対象の今治紹介ツアーを開催しました。お手元に別紙2-5リリース文書および別紙2-6プレス向け招待文書を配布しておりますので、ご参照ください。発表会では、ロゴ・キャッチフレーズの発表が行われたほか、「今治タオル」と「今治の食」のコラボレーションとして、今治タオル本店に併設された「今治タオルカフェ」の発表も行われました。今治タオルカフェでは、期間限定で、さいさいきて屋さんによるロールケーキなどオリジナル商品が提供されました。</p> <p>また、キャンペーンについて周知するために、のぼり旗やステッカー等、キャンペーングッズを作成し、市内に掲示をしたり、イベントで配布したりして、PRを行いました。別紙2-7グッズ等の一覧を配布しておりますので、ご参考ください。</p> <p>「東京オリンピックに向けた今治タオル等プロモーション事業」の説明は以上でございます。</p>
<p>農林振興課 (瀬尾補佐)</p>	<p>つづきまして、「今治の食ブランド基準の設定」に係る項目について、ご説明いたします。</p> <p>すでに今治ブランドとして確立されている「今治タオルプロジェクト」のノウハ</p>



	<p>ウを活用し、「食」を通じて地域を活性化するために、これまで「食と農のまちづくり」活動で培ってきた「地産地消」・「食育の推進」・「有機農業の振興」などをベースに、地域の新たな食のブランド構築を検討しております。</p> <p>地域の活性化のひとつとして、この地を訪れた人に今治の地をもっと知ってもらうことが必要であり、この中のひとつに今治地域の「食」を食してもらうというのがあります。温暖な気候と地形に恵まれた「今治」には、長年にわたり、この地域に親しまれた食材や、反対にあまり知られていない食材、また、加工品などとして検討できる食材も、多くあると思われます。そして、これらを魅力的に発掘し、今治の地を訪れた人に、どのように興味を持ってもらうかが大きな課題であり、これらの活かし方次第では、地域の活性化に大きな役割を果たすことができるものと考えています。</p> <p>こうした中、一昨年4月に、農業者、漁業者、移住者、食品関連業者、JA、学識者など19名により「食のいまבריブランド推進会議」を設立しました。設立2年目となった昨年度は、ブランドの認定要綱、認定基準及び選考基準などについて、各分野の委員からご提言をいただきました。</p> <p>今後におきましては、「食のいまבריブランド戦略」の基本的な方向性・運用について、委員の方々にご意見をいただき、検討を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
平田構成員	<p>つづきまして、中心市街地活性化事業の展開についてご説明いたします。</p> <p>事業概要といたしましては、商店街での消費活動やコミュニティ活動を活性化するために、中心市街地再生協議会を事業主体とした空店舗対策や商業空間の活性化対策を検討し、まちなか交流サロン「ぷらっと」での空店舗情報提供をおこなったほか、平成30年度の新規事業として、中心市街地の現状分析や課題の抽出、先進地の事例研究、まちづくりに関わる団体等によるニーズ調査を通じ、価値向上に関する具体的展開を進めるための調査・研究を行いました。</p> <p>また、中心市街地を交流拠点・観光拠点としての役割を果たすため、移住・定住・交流を推進する事業を実施しました。</p> <p>その事業効果といたしまして、まちなかにおける観光情報や不動産情報・起業情報を提供するためのサービス拠点として、まちなか活性化サロン「ぷらっと」を運営しました。現在も地域おこし協力隊が常時待機してサービスの提供を行っています。まちなか居住支援につきましても、まちなかの不動産情報を公開し商店街の空店舗対策に努めました。</p> <p>別添2-8のまちなか学のチラシをご覧ください。</p> <p>地域おこし協力隊の活動の一つとして、まちなかの歴史・文化を利活用するためにまち歩きイベントを開催し、「まちなかを再発見する」をコンセプトにまちなか学を実施し、地域の魅力を高めることに貢献しました。</p> <p>調査・研究事業では、市民アンケート調査やアーケード整備に関する調査等を通じ、中心商店街の現状や課題を浮き彫りにするとともに、まちなかの価値向上に向けた取り組みを進めることができました。</p> <p>まちなか移住交流推進事業では、地域活性化を学ぶ学生、移住希望者を対象に駅</p>

	<p>前にあります「シクロの家」をお試し居住として、今治の暮らしを体験しまちなか居住に向けた取り組みを行いました。その結果、お試し居住者7名、移住者1名となっております。</p> <p>最後に今後の方針でございますが、繊維染色加工業の基盤強化事業に関しての市からの補助金については、平成30年度で終了となりますが、繊維染色産業基盤強化検討委員会では、引き続き繊維染色加工業の認知度向上を図り、人材確保へと繋げていくとともに、今後は、排水処理等の問題についても調査研究を行っていくこととしております。</p> <p>バリチャレンジユニバーシティの開催については、実行委員会は解散し、令和元年からはFC今治の事業として、バリチャレンジユニバーシティOB学生が中心となって運営することとなっております。</p> <p>いまばりシティクライヤー設置事業については、平成30年度から実施されているアイアイ今治キャンペーンと関連したシティプロモーション活動として実施していくことを検討します。</p> <p>東京オリンピックに向けた今治タオル等プロモーション事業については、市外向けの情報発信を拡大していくとともに、より多くの市民等がロゴ・キャッチコピーを使用したり、コラボレーションが促進されるような市民向けの事業も実施していく予定です。</p> <p>食の今治ブランドづくり事業については、推進会議における具体的検討を推進するため、各分野（農業、水産業、畜産業、加工品、料理）で基準づくりのためのブロック会議をつくり、運用開始を目指していきます。</p> <p>中心市街地活性化事業については、中心市街地の価値向上のための調査・研究事業で得た内容等を地域住民にフィードバックし、ワークショップの開催等により、まちの課題の共有を図っていきます。</p> <p>以上でございます。</p>
座長	<p>ありがとうございました。以上で、1つめの事業、「今治型産業クラスター構築計画」についての説明が終わりました。</p> <p>6つの事業ございまして、非常に多岐に渡る事業、主に染色・タオルから人材育成、まちのプロモーション、また食にも関係いたしております。それとまた中心市街地。まちの中心部の将来についての方向性、種を蒔いて少し新しく自立していった次はどうしていかうかと、そういった説明もございました。先ほどの説明の中で、街中で事業を目にすることもあるかと思うのですが、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。</p>
A委員	<p>何点か質問をしますが、繊維染色加工業の基盤強化事業のカラーショーですけれども、2回、は一ばりーと公会堂で実施されたと思いますが、こういった事業も人材確保と言いましょうか、繊維染色加工業も、今人手不足に悩んでいると思うのですけれども、人材確保のためにこれから育てていく若い方、小・中学生にぜひ見ていただいて、将来そういった仕事に就いてもらいたいのですけれども、小・中学生あたりに見に来てもらえるような活動をされたかどうかお聞きしたい。</p> <p>それともうひとつ、バリチャレンジユニバーシティで、市外の方から多数の方が来られたと思いますが、それでこのバリチャレンジユニバーシティを経験して、今</p>

	<p>治の印象がどれくらい良くなったとか、将来的に今治で活躍してみたいとか、住みたいとか、そういった学生たちがいたのかどうかとか、それをお聞きしたい。</p> <p>もうひとつアイアイ今治キャンペーンを今治で盛んにPRをしておりますけれども、果たしてアイアイ今治キャンペーンがどれくらい市民の方に浸透して、企業や一般の市民の人が、このアイアイのマークを付けてみたいと思っているのかどうかそのあたりが分からないので、分かる範囲で教えていただきたい。以上です。</p>
平田構成員	<p>カラーショーにつきましては、先ほどお話しいただきように人材確保が目的というようなことになっております。小・中学生の方に見ていただきたいということで、全市内の小・中学校と高校生には、チラシを開催にむけて配布させていただいております。それを見ていただいて、平日は厳しかったようですが、祭日にはお子さんにも参加していただきました。</p> <p>特に、工業の学生さんにつきましては、「今治の色と香り」のワークショップにも参加していただいておりますので、それなりに参加いただけたものと考えております。以上でございます。</p>
営業戦略課 (吉松係長)	<p>バリチャレンジについて説明させていただきます。バリチャレンジは、県外の方、多数参加されておりまして、具体的に今治の印象を聞いたわけではないのですが、今年度、先ほど説明ありましたように、FC今治が事務局となって独立してやっておりますが、OBの方が多数参加していただいて、事務局等をやっておりますということで、今治市について興味を持っていただいていたのではないかと考えております。具体的にはアンケートとっていませんので、申し分けございません。</p>
営業戦略課 (吉松係長)	<p>アイアイ今治キャンペーンについてなんですけれども、3月9日からスタートさせていただきまして、今は市民の方に周知をさせていただいている期間でございます。おっしゃられる通り、まだまだ定着はしておりませんし、あのマークを見ても何なの？というような発言が結構多かったですりもしますので、今後は、こういう周知を徹底していきたいと考えております。</p> <p>企業さんにつきましては、タオル美術館さんとか、喜助の湯さんとか、少しずつではありますが、使っていただける企業さんは出てきております。今後は、そういった方を広めていきたいと考えておりますので、またご協力よろしくお願ひいたします。</p>
B委員	<p>資料2の4ページのところの中心市街地活性化事業というところなんですけれども、活性化につながる特効薬、すぐには見つからないというのも皆さんご承知のとおりだと思います。</p> <p>ただ、このたび3つの事業をされたという報告とその事業効果をそれぞれお聞きした中で、今後の方針を書かれておりますけれども、やはり今後におきましても、市民や商工会議所さん等関係する方からヒアリングなり意見聴取していただいて、どのようなカンフル剤を打っていくか、規模も含めて、箇所も含めて、こういう対応をしていただきたいと思ひますし、このような交付金事業、財源確保も含めて、やはり今後も活用していただきたいとお願ひ申し上げたい。以上です。</p>
平田構成員	<p>ありがとうございます。ご意見を参考に、今後また勉強していきます。よろしくお願ひいたします。</p>

座長	<p>これにつきましても、なかなか抜本的な解決策はないんですが、こういったことをひとつずつやりながら積み上げながら、より良い効果を探りながらやっていきたいという風なことでございます。他にご意見、感想でも結構ですのでございましたら、お願いしたいのですが、</p> <p>(質問等なし。)</p> <p>はい。あとの事業もございまして、そうしましたら2つ目の事業に移らせていただきたいと思います。</p> <p>2つ目のしまなみDMO形成推進事業に移りますけれども、担当課からの説明の前に、こちらにつきまして連携事業ということもございまして、本日は評価の仕方につきまして、事務局のほうからご説明させていただきます。</p>
事務局	<p>それではご説明します。「しまなみDMO形成推進事業」は尾道市・上島町・今治市での連携事業となっております、KPIも3市町の合計となっております。事業全体の評価ということになりますと、3市町の合計数値での効果検証が必要となりますが、昨年度と同様に、本日は今治市の実績のみを用いた評価とさせていただきます。今後、尾道市・上島町それぞれの評価が終わりましたら、それらを統合するかたちで別途全体評価を作成し、国への報告等にはそちらでの対応とさせていただきます。また全体評価につきましては、委員の皆さまにも共有させていただきますので、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。</p>
座長	<p>それでは、資料3 地方創生推進交付金事業効果検証調書「しまなみDMO形成推進事業」について、担当課よりご説明します。</p>
鳥生構成員	<p>地域再生計画しまなみ DMO 形成推進事業の平成 30 年度の状況についてご説明いたします。資料3 調書をご覧ください。</p> <p>まず、KPI の達成状況でございます。評価指標が、観光消費額、宿泊客数、外国人観光客数の3つでございます。先ほど事務局からも説明がありましたように、今治のみの数値でございます。2018年の列を縦にご覧ください。1つ目の観光消費額については、対前年比1億円の増加の目標に対し実績は4億円の減少で、達成度▲400%。2つ目の宿泊客数については、対前年比17,000人の増加の目標に対し実績4000人の減少で、達成度▲23.5%。3つ目の外国人観光客数については、対前年比2000人の増加の目標に対し実績7000人の増加で、達成度350%となりました。</p> <p>目標1の観光消費額と目標2の宿泊客数の増加率の目標に対する達成度は、目標を達成できませんでした。この理由はゴールデンウィーク前の受刑者逃走、7月豪雨により国内観光客が減少したことが原因と考えております。</p> <p>一方、目標3の外国人観光客数においては、訪日外国人旅行者数の全国的な増加や、しまなみジャパンによるPR活動が認知度向上に寄与したこと、国際サイクリングへの海外参加者が多かったことが主な要因と考えております。</p> <p>続きまして、実施した事業ですが、28,647千円をしまなみ DMO 負担金として執行し、一般社団法人しまなみジャパンが、プロモーション事業を実施しました。</p> <p>プロモーション事業には、(1) 観光・サイクリング PR 事業、(2) 海外誘客促進事業、(3) マーケティング事業の3つの柱がございます。</p> <p>まず、(1) 観光・サイクリング PR 事業では、本日追加でお配りした、観光パンフレット、サイクリングマップの作成・設置(既存のものを情報更新)、公式ホー</p>

	<p>ムページの更新、特に、英語ページの情報量や宿泊施設・体験メニュー予約システムのコンテンツを随時増やしました。また、フェイスブック、インスタグラムの公式ページを開設し、旬の情報を発信しました。観光イベント・自転車イベントへ出展し、しまなみ地域を広くPRしました。</p> <p>次に、(2) 海外誘客促進事業では、台湾向けには日月潭サイクリングロードでのサイクリングイベントへ参加・出展や松江市と連携し Web 発信、SNS インフルエンサー招聘による PR、その他、JNTO・せとうち観光推進機構と連携したフランス旅行雑誌への PR 掲載、FAM ツアーの受入を実施。また、こちらも本日お配りしている英語圏外国人向けガイドマップの作成（汗・雨に強い紙でできており、30 年度新たに作成したもの）、英語版フェイスブック、インスタグラムの公式ページを開設しました。</p> <p>最期に (3) マーケティング事業、食のブランディング調査事業として海賊むすびの加盟店を募集、販売拡大に向けた動画を作成し PR を行いました。しまなみ地域をブランド化するため、「しまなみブループロジェクト」事業を立ち上げ、第 1 弾として T シャツ、第 2 弾としてタオルハンカチ、ポーチ、サコッシュの商品開発を行いました。地元観光事業者を対象とした観光情報共有のための観光ビジネスセミナーを開催しました。事業の詳細を示した写真を別紙 3-1 として添付してございますので後ほどご覧ください。</p> <p>事業効果ですが、ウェブによる情報発信を強化したことで国内だけでなく海外における当地域の認知度が向上し、外国人観光客の増加につながりました。また、海賊むすびの PR やしまなみブループロジェクトの実施によって、しまなみ地域を一体的にブランディングすることで、地域の魅力の向上につながりました。</p> <p>最後に、今後の方針、改善点などがございます。事業効果の高いものとするため、しまなみ地域の持つ多様なコンテンツからターゲットごとの動向、好みを把握したうえで、①情報発信を計画的に反復して行い、また、②コンテンツを磨き上げることで地域の魅力をさらに向上させ、観光入込客数の増加、滞在時間の延長、通過型観光から滞在型観光への転換へとつながるよう、適宜事業を見直しながら実施していこうと考えております。</p>
座長	<p>ありがとうございました。以上で、2 つめの事業、「しまなみ DMO 形成推進事業」についての説明が終わりました。事業内容につきましてはしまなみ DMO の負担金でございまして、DMO のプロモーション事業、先ほど 3 つ説明がございました。観光サイクリングや海外誘客やマーケティングなど、地域の認知度向上のために、今後は情報発信を計画的に頒布、さらにコンテンツをブラッシュアップしていくということで、今後の取り組みの方針・方向性の説明もございましたけれども、個別の事業の中のことで結構ですので、感想・ご意見、特にもうちょっと詳しく知りたいなと聞きたいことがございましたら、ご発言お願いしたいと思うのですが、いかかでしょうか。</p> <p>こういった取り組みが色々なものと共同・連携しながら、尾道・上島とも連携しながら、よりしまなみ地域の活性化に繋がればという風なことで事業に取り組んでいるわけですが、観光事業でございまして観光面に他市や他地域との取り組みとか事業の内容などと比べてでも結構ですし、ご意見ございましたら、お願い</p>

	<p>します。</p>
C委員	<p>観光というのは、風評被害とか自然災害にとっても影響受けやすい産業だと思います。今回のKPIを見させていただいても、その影響がでているのかなというところで、分析のところにも説明があると思うのですが、観光消費額、宿泊客数に関しては、単年の数字というのもそうなのですが、もう少し中長期的に見ていって、それぞれの産業や尾道との連携というところで、今後の展開とかどういう風にしていくのか見ていく必要があると考えます。</p> <p>あと、コンテンツと観光客のニーズとのマッチングが必要だと思うのですが、観光客のニーズを把握した上で、どういう風にコンテンツを効果的に活用していくかというのが視点になってくるかと思うので、そのために調査も必要ではないかと思います。例えば、「パーソナルトリップ調査」というのが、他の市町村とかではやられていたり、国土交通省でもやっているような調査ではありますけれども、そういった調査を取り入れて、例えば今治でしたら、レンタサイクルを借りた人が、どのような目的でどういう観光地を周っているかを調査をされると、観光客のニーズに合わせたコンテンツの発信というものに、どういう風にアプローチをしていけばいいのか分かります。調査が必要ではないかと思います。</p> <p>もう1つは、外国人観光客に関してなのですが、数字を見る限り伸びており、周知はされつつあるというところ。世界的にも世界7大サイクリングロードとしてCNNでも取り上げられたり、ミシュランガイドの一つ星というところも資料にもありましたけれども、そういったところでの認知度も上がっているというところではないかと思うのですが、今後、新規の旅行者を獲得していくというところと、あとリピーターの確保、来てもらった人に、次もまた今治に来たくなるか、しなみに居たくなるようなコンテンツをどういう風にPRして発信していくかということが、今後の展開として必要になってくるのではないかと思います。以上です。</p>
鳥生構成員	<p>貴重なご意見ありがとうございます。調査をすべきではないかというご提案、まさにその通りだと私も思っています。DMOとは違うのですが、今治市単体としまして、今年度「観光振興計画」というのを予算化させていただいております。その中でそういった調査、ニーズの確認ですね、そういったことをしたいと思っています。そして、観光客がこのエリア内どのように動くかにつきましては、データ会社さん等の情報をいただく必要があるかと思っておりますので、今後検討してニーズの把握には努めていきたいと思っています。あと、外国人のまだ来られてない方へのPRですけども、さまざまなコンテンツがある中で、どういう風な人がこのコンテンツごとにその人に響いていくのかは、なかなか難しいところだと思います。今後とも、新規そしてリピーターの確保につきましては、試行錯誤しながら進めて参りたいと思います。以上です</p>
D委員	<p>マーケティング事業の関係で、食のブランディング事業ということで、海賊むすび加盟店の募集等やられていますが、食材提供等、地域で採れた物を使用した方がよいのかなというところもあるので、協力できる場所も協力をしていきたいです。</p> <p>それと、いま現在、新規就農者募集ということで、県外へ結構行かせていただいて、新しい農業者の方の募集、移住で農業しませんか、という提案をさせていただ</p>

	<p>いています。昨年、一昨年、約8名程度の方がこちらに来られたということで、その中で聞いていると、観光で来て地域の景観に惹かれたという意見が非常に多かったです。特に島方、大三島の中で多かったですが、そういった形で観光事業中心に移住・定住の促進にも繋がってこようかと思っておりますので、そのあたり引き続きお願いしたいと思います。</p> <p>そんな中、移住してきた時の住居対策が問題になっておりますので、そのあたりを農林振興課と現在話をさせていただいているのですが、引き続き行政の方からも支援をよろしくお願ひできたらと思ひます。この内容と若干ずれるところもあるのですが、そういうことでも引き続き協力できるところは協力したいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。</p>
鳥生構成員	<p>食の魅力というのは、そこに行かないと食べられないとか、これは今治市産であるとか、そういった事がここに来ていただける一つの大きなコンテンツと思ひますので、協力いただけるとお聞ひし、今までもご協力いただひているのですが、ありがたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひします。</p>
座長	<p>ありがとうございます。このあとも、まだ他の事業もござひますので、このあたりで、次の事業に移らせていただけたらと思ひます。</p> <p>それでは続きまして、資料4 地方創生推進交付金事業効果検証調書「『いまばりサイクルシティ構想』を核とする広域観光推進計画」について、担当課よりご説明します。</p>
観光課 (渡部補佐)	<p>それでは、『いまばりサイクルシティ構想』を核とする広域観光推進事業の30年度実施状況について、ご説明いたします。資料4(検証調書)をご覧ください。</p> <p>先に「評価年度において実施した事業」についてご説明いたします。</p> <p>1点目は、サイクリング施策を推進するため、愛媛県等と組織しているサイクリング施策推進のための各種協議会等に負担金を支出しました。事業概要の所をご覧ください。(1)サイクルトレインの運行、(2)サイクリングガイドの養成、(3)国際サイクリング大会の開催でございます。内容としましては、そこに記載しておりますとおり、(1)瀬戸内しまなみ海道利用促進のため、JR予讃線の松山・今治間と西条・今治間で自転車をそのまま積み込むことができるサイクルトレインを運行しているしまなみサイクルトレイン利用促進協議会に負担金を支出、(2)瀬戸内しまなみ海道を訪れるサイクリストやツアー客に対し、観光案内にとどまらず、サイクリングの行程管理や安全空間の確保、メカニク的なサポートをするサイクリングガイドを養成する愛媛県サイクリングガイド養成推進協議会に負担金を支出、(3)サイクリストの聖地としてのブランドイメージを高め、交流人口の拡大による地域の振興・活性化を図るため、国際サイクリング大会を開催する「サイクリングしまなみ2018実行委員会」に負担金を支出したものでございます。別紙4-1に、サイクルトレインしまなみ号の運行案内リーフレットを、別紙4-2では、サイクリングしまなみ2018実行委員会の事業報告等を添付しておりますので、ご覧ください。</p> <p>事業効果としましては、(1)サイクルトレインは、計41回運行し、利用者数は441人で、昨年度と比較すると30.9%の増加となりました。特に、平成29年度</p>

に新たに西条便の運行を開始しておりますが、昨年度は、大阪南港から東予港を結ぶフェリー航路において、サイクリストに特化したサービスを強化した新造船の就航などもあり、関西からの利用者が伸びております。

(2) サイクリングガイド養成講習会を8回実施し、参加者に対し、サイクリングガイドに必要な法知識の習得及び実走にあたっての誘導方法の訓練を行いました。延べ62人が受講し、そのうち5人が、公益財団法人日本サイクリングガイド協会が認定するサイクリングガイド検定を受検し、1人が合格しました。サイクリングガイドを養成することにより、多様化する団体ツアーガイド要請に対応が可能となったり、旅館・ホテル業の付加価値サービスとして提供したりすることによる雇用の場の創出又は移住者の起業など新たなビジネス展開の可能性が広がります。

(3) 昨年、10月28日に国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ2018」が開催されました。47都道府県と26の国と地域からの701人を含む7,215人の参加がありました。昨年度の大会は4年に一度の大規模大会で、国内で唯一、供用中の高速道路を通行止めにして走るイベントであるため、国内外から多数の出場希望者があり、いまや日本だけでなくアジアを代表するサイクリングイベントになりつつあります。いよぎん地域経済研究センターが算出した経済効果は、9億3,298万円となっています。

2点目は、「愛媛サイクリングの日」イベント運営委託であります。平成27年度から、愛媛県では11月に「えひめサイクリングの日」を設定し、県内20の全市町で一斉にサイクリングに親しみ楽しめるイベントを開催しています。今治市においては、11月11日「バリライドフェス2018」を市内ショッピングモール周辺及び市内各地で開催いたしました。同日開催のツール・ド・玉川の一部を使ったサイクリングイベントや著名な女性サイクリストのトークショー、市内チェックポイントをスマホのアプリを使って巡るスタンプラリー等を実施いたしました。その他、サンライズ糸山においては、子ども用レンタサイクル無料貸出を同日開催していただきました。別紙4-3 別紙4-4 に、愛媛サイクリングの日実施報告書と開催状況を添付しておりますのでご覧いただければと思います。

事業効果としましては、メイン会場及び市内サイクリングイベントで1,240人の参加があり、交流人口の拡大に一定の効果があつたとともに、普段スポーツ自転車に触れたことがない市民の方々に対しても、市内スタンプラリーやトークショーを通じて自転車に親しみ、サイクリングを楽しむ体験の場を提供することができ、スポーツ自転車乗りの裾野を広げることに効果がありました。

次にKPI達成状況についてご報告いたします。資料4(検証調書)の1ページ「KPIの達成状況」に戻っていただければと思います。

目標1「観光入込客数」につきましては、前年度より23万9千人減少の257万9千人で、目標に対する達成度は▲597.53%となりました。大幅に減少した要因としては、昨年7月の西日本豪雨や秋の行楽シーズにおける台風接近によるものが大きく、他には5月の脱走犯の影響なども考えられます。

目標2「レンタサイクルの利用件数」につきましても、前年度より8,068台減少し、58,304台となり、目標に対する達成度は▲146.7%となっております。こちらの減少要因についても、観光入込客数の減少と同じ理由と考えられます。



	<p>目標3「外国人宿泊客数」については、前年度より6,765人増加し、また、単年度の目標人数16,560人も大幅に上回り27,671人となり、目標に対する達成度は1,879.2%という結果となっております。これについては、2020年の東京オリンピック控え、日本全体に海外からの旅行客が増えていることの影響が考えられますが、一方で海外におけるしまなみ海道の認知度が上がってきていることも要因であると考えております。</p> <p>平成31年度以降におきましても、受入環境整備として今治駅前サイクリングターミナル等の整備を着実に実施いたします。また、引き続きサイクルトレイン等の事業を実施し、今治・しまなみ海道への誘客ルートの充実に取り組みます。</p> <p>また、サイクリングイベント開催による自転車新文化の普及により、交流人口の拡大及び市民自転車の裾野を広げる施策を継続して実施していく予定でございます。</p> <p>以上でございます。</p>
座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>以上で、3つめの事業、「いまばりサイクルシティ構想」を核とする広域観光推進計画」についての説明が終わりました。国際サイクリング大会への負担金等、大きく華々しい事業ですが、また一方でガイドの要請や、えひめサイクルイベントの運営、サイクリングに親しむ・楽しむ自転車乗りの裾野を広げる事業、そういった地道な事業もございます。</p> <p>こちらの方も多岐に渡る事業となっておりますけれども、先ほどの説明に関しましてもう少し内容、この点とかもうちょっとこうしたら良いのにな、とか感想でも結構ですし、ご意見でも結構でございます。何かございましたら、ご発言をお願いしたいと思うのですが。</p>
E委員	<p>私が常日頃感じていることで、意見を述べさせていただければ。私は、港のほうで生活しておりますが、港のほうはスペース的に余裕があるのですが、今治の駅前について。あの区域に新しい計画が市の方であるとは聞いていますが、サイクリングで来た人が、悪天候時に、駅舎のアーケードの下で自転車をしまつて、それからバスに乗って帰る人がかなりいるようです。せっかく訪れた人たちに対する設備のサービスがあれで良いのかといつも思っております。バスのターミナルにしても同じですが、少し雨が降るとイスに座っていても足元が濡れるというようなことがありますので、やはりサイクリングを売り物にする今治市の駅を中心としたところに対して、もう少し早急に対応をしていく必要があるのではないかと思います。</p> <p>尾道市は我々がよく見ておりますと、本当に設備が行き届いていて、自転車へ乗る人たちは向島へ渡って、それからしまなみの橋へ入るわけなんですけれども、その間に色々な設備の揃い具合というのは、宿泊施設もそうですが劣っているのではないかと。四国に来ていただくためには、それなりの整備をして、楽しいサイクリングが出来るようにする、そういうことが必要ではないかと常々思っているもので、少しだけ述べさせていただきました。以上です。</p>
観光課 (渡部補佐)	<p>駅前につきましては、報道されている通り、来年度の春以降オープンを目標に駅前のサイクリングターミナルを、今年度建築工事に入ります。それが出来たら、ある程度の色々なサイクリストや観光客におもてなしの出来る施設になろうと思</p>

	<p>いますので、ある程度改善されるものと考えております。</p> <p>あと駅前・街中ではないですが、例えば大三島・島嶼部におきましても、色々な民間の新たな資本、ゲストハウスですとか、サイクリングのお客様に特化した施設宿泊施設について、民間の参入が始まっております。そういったところにも、期待をしているところであります。</p>
F 委員	<p>ちょっと質問が2点あります。</p> <p>質問のうちの1つめは、先ほど資料4の中で、外国人宿泊客数のところ。2018年に実績として6,765人という数字がありまして、この資料4の前の資料3の説明のときには、外国人観光客数の2018年の実績が7,000人という数字が出ていましたが、統計の取り方に違いがあるかもしれないですが、これを見る限り、外国人観光客7,000人来た方が、大半90%泊まって帰っている認識でいいのかということが1つ目の質問でございます。</p> <p>それから2つめは、以前の会でもご質問があったのですが、昨年か一昨年かGWに糸山サイクルターミナルで自転車が不足していて、遠くから来られた観光客からちょっとした苦情があったようなお話がありましたが、まだGW終わって月も変わっておりませんが、今年は長い人で10連休ありましたが、概要で結構ですので、レンタサイクル利用者数はGW中これまでと比べてどうだったのか、お分かりになれば教えていただきたいのが2点目です。</p> <p>それと、E委員さんからもサイクリストに対する環境というお話がありましたけど、私も駅前のローソンをよく使うのですが、その店長さんとちょっとお話ししたら、ローソンの入り口の左側が自転車置き場になっているのですが、乗り捨てというか、取りに来られてないのか、自転車置き場にいっぱいになって、その上にまだ自転車が山積みになっている状態になって、お店の方も大変困っている。なかなかどういった方法が良いかわからないというところがあるのですが、私の思うのは今治の駅前で、駅の下にジャイアントのレンタサイクルがあって、あそこからしまなみ海道へ向かうときに必ずローソンの自転車置き場を通って行くのですよね。自転車借りて、さあ行こうか、といった時に、山積みになっている自転車はイメージが良くないと感じております。行政・今治市さんとしてどういったことが対応できるのかということがあるのですが、サイクリストの玄関口の1つでもありますので、やっぱり環境美化といいましようか、環境整備は進めていったほうがいいのではないかと思います。以上です。</p>
観光課 (渡部補佐)	<p>外国人の宿泊客数と外国人観光客数についてですが、同じものでございます。資料4の目標3の外国人宿泊客数見ていただきましたら、平成30年度は6,765人増えて、実数としまして、27,671人でございます。これが実際に宿泊した外国人の人数となります。宿泊のときに、把握をしております。</p> <p>それから、サンライズ糸山の今年度のGWレンタサイクルの状況でございますが、おっしゃるとおり10連休間ありまして、あいだ雨のところもありましたが、全般的にこの8年間で、過去最高の実績となっております。どの施設も120~130%くらいと昨年度と比べて増えております。これは、レンタサイクルに限ったことではなく、今治市内観光施設総じて、そういった現象がおっております。</p> <p>最後、ローソン前放置自転車。我々も来年度の新しい駅前サイクリングターミナ</p>

	<p>ルのオープンに合わせて新しいターミナルが出来た横に、ああいう放置自転車があつてはいけないということで、ちょうど先日、今治署の地域課長さんと協議を行いまして、放置自転車につきましては、一定の期間を置きましてローソン様のほうで対応していただく、撤去していただくというような話をしました。ただ、撤去しただけではスペース的に広くて、構造的に撤去した後も、また置き始めると構造的な問題もあると思いますので、そちらにつきましては、ローソン様のほうに対応していただくというようなことで協議をしております。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。あとの事業がございますので、もしご質問ございましたら、またあとのほうでお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、次の議事へと進めさせていただきます。議事（２） 地方創生拠点整備交付金事業（平成 30 年度実施事業）の効果検証について、協議をさせていただきます。</p> <p>資料 5 地方創生拠点整備交付金事業効果検証調書「「いまばりサイクルシティ構想」を核とする広域観光推進計画」について、担当課よりご説明します。</p>
<p>観光課 (田中補佐)</p>	<p>地方創生拠点整備交付金を活用した「瀬戸内しまなみ海道沿線（大三島）における滞在・交流拠点整備事業」についてご説明いたします。</p> <p>この事業の目的といたしましては、近年急増している外国人サイクリストを中心とした、観光客の島しょ部における周遊・滞在拠点を整備するため、大三島ふるさと憩いの家を改修し集客力と拠点性の強化を図るものでございます。調書をご覧ください。</p> <p>まず、「K P I の達成状況」でございます。評価指標が、観光入込客数、レンタサイクルの利用件数、施設利用収入の 3 つでございます。</p> <p>目標数値に対する達成度についての分析ですが、目標 1 「観光入込客数」と目標 2 「レンタサイクルの利用件数」につきましては、先ほどの「いまばりサイクルシティ構想」を核とする広域観光推進事業と同じ内容となっております。</p> <p>目標 3 の「施設利用収入」については、前年度比 4.8%ほど下がっておりますが、この要因につきましては、当該数値を暦年で計測していることに加え、宿泊事業施設のリニューアルオープンが 4 月末となり、1～4 月分の利用収入が無かったためでございます。リニューアル工事前の平成 28 年と比較しても、一月あたりの平均収入額は平成 28 年の約 2, 2 5 4 千円に対し、平成 30 年は 5 月から約 8 ヶ月の営業で約 2, 8 0 5 千円となり 24.5%ほど向上している点を鑑みても、平成 3 1 年以降においては、更なる収益の改善が見込まれます。</p> <p>つぎに、「施設の整備の内容」について説明させていただきます。</p> <p>1 点目の、[拠点機能強化のための建物改良]についてですが、国内外からサイクリストや観光客を呼び込み、島しょ部における滞在・交流拠点として機能強化を図るため、2 階建て棟の 2 階部分の一部を食堂兼交流スペースとして利活用できるよう屋根・床下の改修と耐震補強工事を実施しました。また、2 階建て棟の屋根は瓦屋根から板金屋根に改修して軽量化し、耐震性能を高めました。</p> <p>2 点目の、[入浴施設の増設]についてですが、瀬戸内の島々を一望しながら入浴できる風呂棟（セミパブリックバス）を増設し、風呂棟と本棟（2 階建て棟）の間には、景観に配慮した誘導路として渡り廊下（石畳）を設置し、利用者の利便性を</p>

向上させ、滞在拠点としての機能強化と誘客促進、交流機会の拡大を図りました。

3 点目の、[インバウンド誘客のための模様替え]についてですが、客室のフローリング化や来訪者も利用できる洋式トイレの増設、交流スペースの設置、食堂の内装や照明等の改修により、宿泊・利用環境を整備することで滞在拠点に必要な快適性を高め、インバウンドの誘客促進を図りました。

次に、「事業効果」についてですが、廃校となった木造の小学校を耐震化し、宿泊施設及び地域の交流拠点としてリノベーションを行なうとともに、海が見える風呂棟の新設による新たな観光機能を付加することで、瀬戸内しまなみ海道におけるサイクリストやインバウンドの滞在・周遊の拠点や地域住民の交流の場として利用されることで、地域の活性化に繋げることができました。

次に、「施設の活用状況」について、ご説明いたします。お手元の資料 5-1 に各イベントの写真などをつけておりますので合わせてご覧ください。1～2 ページをご覧ください。6 月 30 日には、ウェディングパーティーが行なわれ 80 名の参加がありました。3 ページをご覧ください。8 月 13 日には、地域の伝統行事であります宗方權伝馬に 30 名の参加がありました。4 ページをご覧ください。9 月 2 日の水軍焼陶芸教室に 4 名の参加がありました。5～7 ページをご覧ください。9 月 16 日のワイン講座に 10 名参加がありました。8～10 ページをご覧ください。10 月 29 日の愛媛・ハワイ高校生会議に 20 名の参加がありました。このように各イベントが開催され、交流スペースを地域住民の交流の場として地域の活性化に繋げることが出来ました。つづきまして、11～14 ページをご覧ください。9 月 8 日の伊東建築塾が主催する伊東豊雄建築ミュージアムこどもワークショップには 50 名の参加がありました。15～21 ページをご覧ください。平成 31 年 2 月 9 日の伊東建築塾建築ツアーには 8 名の参加があり、伊東建築塾との連携した事業も実施しております。

なお、施設の稼働率は平成 29 年が 22.0%でしたが、平成 30 年は 27.7%へ向上しております。また、新設された海が見える展望風呂は施設の特徴であり、人気を呼んでおり、屋根および床下の改修と耐震補強工事、一部客室の洋室化、洋式トイレの設置により以前よりも快適性が増したと好評を得ております。

最後に、「今後の方針、改善点など」についてですが、改修工事によって快適に過ごすことができるようになった施設を最大限活用して、しまなみ海道を訪れる観光客やサイクリスト、外国人観光客の滞在・周遊の拠点として、さらには、地域住民の交流の場として、様々な催しやイベントの開催を促進していきます。

また、伊東建築塾が進めるプロジェクトの拠点施設として、さらに多くの宿泊者および来訪者を呼び込むために周知を図り、引き続き伊東建築塾との緊密な連携を図ることで、地域の移住者との連携や既存の取組み等との政策間連携を進めるとともに、運営事業者による新たな収益事業の展開を通じた事業収益の確保を促進し、当該施設の安定的な運営を図ります。瀬戸内しまなみ海道沿線の間地点における島の滞在・周遊拠点として利活用を図り、さらなる交流人口の拡大につなげ、しまなみ海道の知名度向上を図っていきます。

「瀬戸内しまなみ海道沿線（大三島）における滞在・交流拠点整備事業」については、以上でございます。

座長	<p>はい。ありがとうございました。瀬戸内しまなみ海道沿線の滞在交流拠点、具体的には、大三島ふるさと憩いの家の拠点としての改修でございました。先ほどの説明について、これからの今後の方針・改善点等ご意見ございましたら、よろしくお願いたします。</p>
G委員	<p>この事業の効果検証については、目標の指標が、それぞれ豪雨だったり、台風の影響があってどう評価するか非常に見づらい中ではあったんですが、先ほどの説明の中で、施設のひと月あたりの平均収入は、220 から 280 万に増えていると。また施設の稼働率も、平成 29 年の 22%から平成 30 年の 27.7%に増えているというような分析。あるいは、先ほどE委員、F委員から、ソフト部門だけでなく環境整備が非常にこういうサイクルシティ構想を推進するにも必要であるというような意見も参考にとりか、そうだなというところもあって、ある程度、施設整備というのが、この戦略の中で、効果を得られたのではないかと思います。資料4でご説明があったサイクルイベント、ソフト事業に合わせて、広い尾道から今治まで、大三島自体でも広い中で、橋だけに頼って自転車で楽しむというのは、なかなか難しい。随所、随所で必要なハードの整備というのは、先ほど駅前のお話もありましたが、していく中で、この広域観光計画を推進していただきたい。大三島は3,000人切っているし、上浦も人口3,000人切る中で、地域が福祉の部門も含めて存続していくためには、この地域の稼ぐ力と雇用を創出していただくような目標を少し、観光課だけでなく、目標の視線を上げた取り組みをしていただけたら、私どもとしてもありがたいと思いました。以上です。</p>
観光課 (田中補佐)	<p>ありがとうございます。さらなる島の拠点滞在について、利活用できるような施設に、憩いの家もなっていけたらと思います。色々、集客についてとか、観光客のご意見を聞いて、進めていきたいと思っています。ありがとうございました。</p>
座長	<p>以上で、4つめの事業、地方創生拠点整備交付金事業「いまばりサイクルシティ構想」を核とする広域観光推進計画」についての説明が終わりました。  ここまでの内容で、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。  (質問等なし)  そうしましたら、会次第にございますとおり、報告の案件「地方創生港整備推進交付金事業の中間評価結果について」に移らせていただきます。内容について、担当課よりご説明します。</p>
品川構成員	<p>それではご説明します。地方創生港整備交付金事業でございますが、国からの認定を受けました地域再生計画「しまなみ、ゆめしま、とびしま 3海道を支える港づくり計画」に基づき愛媛県、今治市、上島町が共同で実施するハード整備事業であります。  本地域計画は、目標に掲げる中間目標値等の達成状況及び事業の進捗状況等の検証を行い、必要に応じ認定地域再生計画の見直しを行うとともに、計画期間終了後においては、速やかに事後評価を行い、目標の達成状況について明らかにし、必要に応じてフォローアップなどの取り組みを継続するようになっております。この交付金事業におきましても、愛媛県漁業協同組合連合会今治出張所、今治地方観光協会、芸予汽船株式会社といった外部の委員が参画する、「しまなみ、ゆめしま、とびしま 3海道を支える港づくり計画」検討会において目的を達成するための調整</p>

	<p>及び検討を行い、継続性のある評価を実施するため、この検討会において中間評価を実施したものでございます。</p> <p>資料6の「地域再生計画（地方創生港整備推進交付金）中間評価調書は、検討会による中間評価に基づいて作成されたものです。今治市におきましては、これまで宮窪漁港、小大下漁港、宗方漁港につきまして、浮棧橋の改良などを行い、船舶及び利用者の安全な利用環境の保全を図りました。会におきましては、各漁港の事業費や漁獲量減少の要因などにつきまして、貴重なご意見を頂きました。</p> <p>本事業における今治市の事業は平成30年度で終了をしておりますが、愛媛県の事業が残っておりますので、事業終了後には同検討会にて事後評価が行われる予定です。その評価結果につきましてもご報告させていただきたいと考えております。</p> <p>また、今後も老朽化の著しい浮棧橋の改良等を行い、海上交通利用者の安全確保、漁業活動の安定、ひいてはサイクリングの聖地に相応しい景観の確保を図ってまいります。</p> <p>以上が地方創生港整備推進交付金事業の中間評価結果につきましてご報告させていただきますものでございます。</p>
座長	<p>ありがとうございます。以上が報告の案件でございました。最後に、これまでの案件や先ほどの報告に関して、意見やご質問はございませんでしょうか。</p> <p>（質問等なし。）</p> <p>ないようでございますので、以上で全ての次第が終了いたしました。委員の皆さま、貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。最後に、今後の予定について、事務局よりご説明します。</p>
事務局	<p>それではご説明します。本日委員の皆さまからいただいたご意見を、資料2～5の評価調書の左下部分に記載し、市の方針もそれをふまえた内容に調整したうえで、6月上旬を目途に、委員の皆さまに郵送させていただきますので、ご確認いただきますよう、お願いいたします。評価結果につきましては、ご確認いただいたのち、市議会においてお示したうえで、市のホームページにて公表させていただくこととなりますので、ご了承ください。</p> <p>次に、委員の任期満了に伴う選任について、でございます。委員の皆さまには平成29年7月に委員の委嘱をさせていただいて以降、2年の任期が今年6月末で満了するところでございます。市としましては、地方創生の取組を進める中で、ビジョン懇談会は今後も継続して実施してまいりたいと存じますので、大変お忙しい中恐縮ではございますが、7月以降も引き続きご協力をいただければと考えております。</p> <p>また、総合戦略につきましては、今年度で計画期間が満了となるため、国の動向も踏まえた、新しい総合戦略を策定する必要がございます。策定にあたっては、新たに専門委員を追加し、懇談会の充実をはかっていくことも検討したいと考えております。</p> <p>また、今後のビジョン懇談会の予定でございますが、今年度、あと3回の開催を予定しております。総合戦略及び共生ビジョンのKPIの効果検証を8月頃に、新規総合戦略策定にかかる1回目の審議及び共生ビジョンの所要の改訂を11月頃に実施し、2回目の総合戦略の新規策定にかかる審議を令和2年2月頃に実施予定でございます。</p>

	<p>最期に、本日の資料1-1「今治型産業クラスター構築計画」と資料1-2「「いまばりサイクルシティ構想」を核とする広域観光推進計画」の地方創生推進交付金事業は30年度で事業実施期間が終了いたしました。また、「今治型産業クラスター構築計画」におけるプロモーション事業の後継として「マスターブランドでまちの価値を高めるまちづくり計画」を新たに作成し、お手元に配布させていただいております。委員の皆さまにおかれましては、引き続きご協力を賜りますよう、お願いいたします。以上でございます。</p>
座長	<p>ありがとうございました。今後の予定等につきまして、ご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>(質問等なし。)</p> <p>かまいませんでしょうか。それでは、本日は長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございました。これをもちまして、令和元年度第1回「今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会」を閉会といたします。</p> <p>皆様、本日はどうもありがとうございました。</p>